

小学生男子の身長はだいたい160cm。向かい合いながらも視線が合わない高さに壁を配置し、楽しいトイレを目指す。小便器の下には、においの発生を防ぎ、汚れも付きにくくて落ちやすい光触媒を使った床材を使用。



大分県中津市立 おき だい 沖代小学校

子どもたちの快適性を追求し
洋式化、温水洗浄便座化へ

「改修後、子どもたちが初めてトイレを見ると『うわー、ホテルのトイレみたい』と驚くほど喜んでくれる。その声を聞くのがうれしくて」と語るのは、中津市教育委員会教育総務課教育施設係の千原仁主査。

中津市では、平成27年3月までに市内の公立小中学校の耐震化を完了。「掃除してもきれいなやらん」「座るトイレじゃな」と行ききらんと子どもたちから声が上がっていたトイレに關しては、24年から急ピッチで改善を進めてきました。

「子どもたちに少しでも快適なトイレを使ってほしいという思いから、改修の方針は、『トイレの男女共用利用の廃止、全洋式化、全温水洗浄便座化、床の乾式化、バリアフリー化』としています。レイアウトは、児童の動線がわかっている学校現場の意見を取り入れながら決めていきました。ちなみに公衆トイレもすべて洋式で温水洗浄便座が標準です」
(教育施設係 泉由貴子さん)

平成26年にトイレ改修を実施した沖代小学校の校舎は築33年。改修前のトイレは暗く、湿式で、便器は和式。においを取るために配管工事をしたり、和式が使えない子どもたちのために簡易的な洋式便器をいくつか設置しました。

「でも、結局においは取れませんが、簡易式の洋式便器は掃除が非常に大変。子どもたちのため、全面的に改修してほしいと思っていました」と伊藤滋教頭。改修でこだわったのは「楽しくなるトイレ」です。例えば、男子の小便器は視線を遮りながらも向かい合うように配置。回遊性を重視して洗面台は空間の真ん中に配しました。

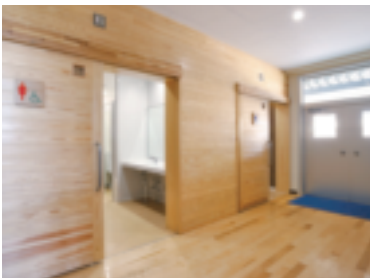
におい対策として消臭効果のある珪藻土を壁に使ったり、飛び散りの気になる小便器の下に、においの発生を防ぐ効果のある床材を採用したりしました。明るくなりにおいも消えたトイレは子どもから大好評。居心地の良さからゆっくりトイレを利用する子が増えたそうです。



手洗いは自動水栓で節水に配慮している。

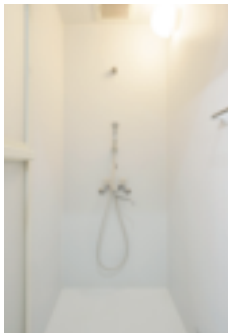


女子トイレは柔らかなピンク色の床で落ち着いた雰囲気に。洗面台の鏡は円形で統一。



1階の職員用トイレは、安全面、開閉のしやすさに配慮して引き戸に。

今回の改修で学校の要望によって設置された保健室のシャワー。「保健室にはシャワーは必須。できればトイレもほしいです」と養護教諭さん。



DATA

- 竣工年月 / 2014年9月
- 所在地 / 大分県中津市中央町2丁目3番33号
- 施主 / 中津市
- 児童数 / 571名 (2016年2月)
- 設計 / 瀬口建築設計事務所
- 施工 / 伸和建設



各フロアに多機能トイレを一つ配置。床は汚れにくい素材を採用。



男女とも、個室ブースはふたなしの温水洗浄便座が標準。

バリアフリーで、廊下から段差なく多機能トイレに行ける。左は男子トイレ入口。

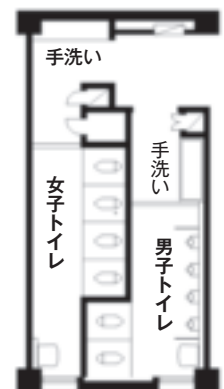


/// 改修後 ///

3階にしつらえた女子トイレ。中央に配した洗面台は壁付きで、廊下側から目隠しの役割も。



2階の男子トイレ。小便器が向かい合わせという新しい配置。窓際のブースは明るくゆったり。



/// 改修前 (2F) ///

同じ階を男女で分け合っていたため、狭い上に便器は全和式。湿式床で常に悪臭を放っていた。